

会
員
広
場

アイヌが身に着ける晴着について 北海道支部 青山絹江

男性の晴着

頭に被る儀礼用冠(サパウ
ン)はブドウツルや木の皮を用い
て編み込む。晴着の丈は膝下一
〇cm位で、脚絆をつける。晴着
の上には陣羽織を掛ける。



女性の晴着

頭にアイヌ紋様を刺繍した鉢
巻(マタンプシ)を着用。晴着は
裾を長くして男女が共有出来
るように裁ち、縫う。男性は華
やかで女性は控えめ。



見 拝 エ トリ ア 明日への扉 委員 湯澤朱美



湯澤 朱美

明日に向かって進んで行
きたいと、誰もが願っている
と思います。

私の明日は薔薇園と植物
園を造り、皆さん達とスケ
ッチ会や、ワークシヨップを
行える様な、小さなギャラ
リーを数店建てようかと考
えています。楽しく素晴ら
しい時間を色々な方々と
過ごしたいと思ひ描いてい
ます。



自宅脇のアトリエ
ギャラリー外観

この度は、その第一歩の扉
を開けて、本業の切り絵
アトリエを建てました。
こんな時代に入り、改めて
時間の使い方と過ごし方を
見つめ直す事が出来ました。
人との繋がりがいかに大切
な事かと言うことを学びまし
た。

今、人々は自宅で過ごす
時間が多く成りました。そし
て生きがいにと、習い事を考
える方が増えています。



アトリエギャラリーにての教室風景

この様な時代は続く事では
よう。人との繋がりがりと時間
を、大切に過ごしたいと考
えています。
私の再出発の始まりです。
どうぞ応援を宜しくお願い
致します。

編集後記

お コロナ終息を願って

明けましておめでとうございます。今年も会報をよろしくお願ひ致します。

担当 石原 修

会員異動 事務局
(令和2年9月以降)

特別会員 鈴木健夫 逝去 96歳 10.31 付以上

計報

鈴木健夫氏(すずき、たけお)洋画家、新日本美術協会特別会員) 10月31日死去。96歳。静岡県出身。1982年新洋画会(現新日本美術協会)展に入選、同会員となる。長野県の白馬にアトリエを構え、信州の山岳や静物を主なモチーフとした。闘病を続けながらも制作に励み、100歳展を目指していた。

(新美術新聞の記事を転載しました)

私の一枚

委員 水野 美預子
題名「日向夏みかんと布」
水彩画 F10号
九州、宮崎の叔母が庭でなった実を葉付きで送ってくれました。